

北京消息第33号

新潟市北京事務所

中国北京市東城区建国門内大街 18 号
恒基中心 1-704 号室

<http://city.niigata.org.cn/>

11 月 30 日発行

報告 1

10 月 24～28 日 新潟物産展 蘇州で開催

新潟物産展が 10 月 24 日(水)～28 日(日)の五日間、蘇州の泉屋百貨店で開催されました。今回の物産展は、今年 1 月に上海梅龍鎮伊勢丹百貨店、2 月に「元気な日本 in 上海」展示会、5 月に瀋陽伊勢丹百貨店で行われた物産展に次ぎ、県が中国で主催した 4 回目の物産展です。

日中両国関係は重い空気が漂っていた時でしたが、中国で物産展を開催することで、県産品の中国での認知度向上と県内企業の製品の中国市場への進出を今までどおり重視且つ支援する決心を示しました。

今回の物産展では、いつも人気のある新潟から輸入した金属加工製品以外に、木製おもちゃ、県内企業の中国現地法人が作った食品等も販売しました。来場者から「日本製品は品質はいいが、値段が高い」、「日本政府は別として、日本製のものはいい」、「この時期に物産展をやるのは相当な勇気を持ってますね」という声を聞きました。

また、泉屋百貨店の 4 階の生活用品店には、燕商工会議所の製品販売コーナーがあります。今回の物産展を通じて販売実績のよい製品を今後中国で取り扱えればと期待されています。(鞆)



泉屋百貨店の外観



物産展の様子



物産展の様子



物産展の各コーナー

報告 2

第 6 回 中国国際福祉博覧会 開催

11月15日～17日、北京の国際展覽センターで第6回中国国際福祉博覧会が開催され、2日目の16日、会場へ視察に行ってきました。この福祉博覧会は中国の急速な高齢化と介護・福祉用品の需要の高まりを背景に、また2008年の北京パラリンピック開催を契機に、障害者への敬意を理念とした福祉用品を展示する博覧会となっています。主催は中国障害者連合会と全国老齡工作委员会事務室です。2007年第一回目の来場者数は約6万人、そして第6回にあたる今回は約10万人もの来場者があったとのこと。また、出展企業の約半数は海外からの出展となっており、今年も、中国・香港・台湾・カナダ・日本・韓国・ドイツ・ベルギー・ニュージーランド・デンマーク・スウェーデン・スイス・オーストリア・イタリア・豪州・英国・米国といった16ヶ国・地域の企業が参加しました。日本からは40の企業が出展し、企業自らが直接出展した以外に、JETROが出展するジャパンパビリオンには11の企業・団体が参加していました。

福祉博覧会を視察したのは今回が初めてでしたが、場内は予想以上に多くの人で賑わっていました。各企業の展示品は介護食やユニバーサルデザイン食器といった比較的小さな生活用品から、車椅子、介護用ベッドといった大きなもの、車椅子で直接乗り降りできる乗用車など、幅広く展示されていました。また、ユニバーサルデザインを取り入れた浴室やトイレ、寝室といった内装そのものを展示しているブースもありました。会場はバイヤー以外にも一般市民も入場することができるため、障害者や高齢者などの多くの市民も訪れ、中にはブースで車椅子に試乗し、その場ですぐに予約・購入している姿が見られました。



博覧会入口



JETRO のジャパンパビリオン

中国はまだ経済的に発展途上であるにもかかわらず、急速に少子高齢化が進んでおり、2010年に実施された国勢調査によると、2000～2010年の10年間で、中国の人口増加率は年間平均0.57%で前10年間の1.07%を大きく下回っており、明らかに人口増加の速度が緩まっています。そしてそれと同時に人口構造も大きく変化し、2010年60歳以上の高齢者の人口が1億7800万人に達し、総人口に占める割合が1982年の7.62%から13.26%に増加している一方で、0～14歳の子供が総人口に占める割合は33.59%から16.60%に減少しています。これらは、中国が少子高齢化社会に突入していることを示しており、今後、65歳以上の高齢者の割合は2027年に15%、2035年には20%をそれぞれ突破し、2050年には25%を超えると予測されています。こういった現象を受け、中国では「未富先老（豊かになる前に老いてしまう）」という言葉をよく耳にします。つまり、経済発展が急速に進んでいるとはいえ、中国全体が十分豊かになる前に高齢化が進み、国力を左右する労働人口が減少してしまうということです。そして、現実として急速に少子高齢化が進む中、介護保険・社会保障面の法律や制度の整備が現状に追いついてなく、また介護施設や老人ホームといった施設も需要に対して供給が不十分で、実際には多くの高齢者が自宅で晩年を送るしかないとのこと。また、展示会の視察に来たある新潟市内企業の方の話によると、中国では病院に隣接した形で介護・福祉用品等を扱う店舗があるが、内装も簡素で品揃えも中国製の安価なものが多く、日本の品質の良い高性能な商品はほとんど見られないそうです。

このように高齢化が進む一方でそれらに対応したサービスや施設、商品がまだ不十分である中国に対し国内外の多くの企業が着目し、ビジネスチャンスととらえ、この広大な福祉・介護マーケットに参入しようとしているわけです。日本は中国より先に少子高齢化を迎えており、介護や福祉に関する高品質なサービスや商品が供給可能であり、中国でもとりわけ富裕層の高齢者に向けたビジネスにチャンスがあるのではないのでしょうか。（笠原）



車椅子に配慮した造りのキッチン



高性能であるだけでなく、カラフルでスタイリッシュなデザイン性の高い車椅子

18回共産党大会と底打ち感が出てきた中国経済

18回党大会が終わった。予想に反して胡錦濤はすべての職から退くことが決まった。かつて鄧小平は無役のまま「最高実力者」として君臨し、党内には「重要な事項は全て鄧小平同志に相談する」という秘密規定があった。次の江沢民もこれを踏襲し、引退した後も「重要事項は江沢民同志に相談する」という決まりを作って、大きな影響力を保持してきた。このような封建的な慣習は胡錦濤により終止符が打たれた。多くの人はこれを歓迎し、胡錦濤の決断を称えている。

新指導部の陣容を見て、「江沢民色」が強いと感じた人は多いだろう。それは習近平、李克強を除いた政治局常務委員5人の内、張徳江、張高麗は江沢民派と見られていたし、俞正声、王岐山は「太子党」（かつての高級幹部の子弟）、劉雲山もどちらかと言えば江沢民に近いと見られていたからだ。有力な常務委員候補で、胡錦濤と同じ共産主義青年団出身の李源潮、汪洋、劉延東は外れた。ところが全く逆な見方がある。胡錦濤は今回人事で争わず、候補者のうち年功序列的に上位5人を選んだ。その結果、李源潮、汪洋、劉延東は落ちたが、年齢制限規定で5年後の大会では、習近平、李克強以外の5人は全て交代することになる。その後を引き継ぐのは、現在の序列から言えば李源潮、汪洋、胡春華、孫政才、周強など、ほぼ胡錦濤系列の人物となる。劉延東は唯一の女性候補として期待された面があるが、年齢制限規定で次回はない。今回は江沢民の顔を立て、花道を作ってやることで引導を渡したというわけだ。中南海の江沢民事務所も撤去されたそうだ。「損して得取れ」、「戦わずして勝つ」、正に孫子の兵法と言うわけだ。

さて、習近平体制は発足したが、内政、外交とも難題を背負っての船出と言える。中国経済はほぼ2年にわたり減速傾向が止まらなかった。2011年の四半期から今年の第2四半期までのGDP成長率は、9.7%→9.5%→9.1%→8.9%→8.2%→7.6%と落ちてきた。今年の第2四半期の7.6%が底で、第3四半期から反転上昇に転じるという見方もあったが、第3四半期（7月—9月）の成長率は7.4%と、減速傾向に歯止めはかからなかった。

ところが、習近平体制の発足に合わせるように、ここにきて中国経済は底打ち感が出てきた。中国人民銀行（中央銀行）の周小川総裁は今回の党大会で「景気は緩やかながら安定し、幾つかの経済指標は上向きつつある」と述べた。確かに、力強いとは言えないが、10月の工業生産の伸び率は対前年同月比9.6%増、卸売物価指数は0.2%増と6か月ぶりにプラスに転じ、小売売上高なども14.5%増になるなど、経済に上向き感が出てきた。中国のGDPの1割強を占める新車販売台数も急降下状態からやっと抜け出し、10月は5.3%増と、2か月ぶりにプラスに転じた。雇用は堅調で比較的安定している。これらは中国政府が景気下支えのため行ってきた投資事業の認可加速（特に鉄道など交通網整備がけん引）などが効果を上げてきたからだ。輸出も光明が見えてきた。10月の輸出は1756億ドルで、対前年同月比11.6%増と4か月ぶりに2ケタの伸びだった（9月は9.9%増）。

ひと息ついた感はあるが、政府は楽観しているわけではない。不安定要素が多いからだ。内陸部を中心とした内需の掘り起しが成功するか、外需型成長から内需型成長への転換がスムーズに進むか、新たな消費分野の創出ができるかなど、課題は多い。さらにはEU、

米国の長期低迷、そして日本との険悪な関係が暗い影を落としている。日本の貿易総額に占める中国の割合は23%、中国の貿易総額に占める日本の割合は9.4%だ。もちろん「経冷」によるダメージは日本の方が大きい、中国のダメージも少なくない。9月の日本からの輸入は9.6%減、10月は同10.2%減だった。

日中関係について言えば、一時は民間の人事交流や文化交流も止まってしまったが、最近少しずつ復活しつつある。経済関係もこれ以上悪くならないことが望ましいが、今中国の対日関係者は最悪のシュミレーションを恐れている。それは日本の総選挙の結果自民党（中心の）安倍政権が誕生し、安倍首相が靖国参拝をするというケースだ。ある対日関係者はこう言った「島の問題も軟着陸できないうちに、首相の靖国参拝が加わったら、中日関係は本当に終わりだ」。

中国と日本は世界第2位と第3位の経済大国だ。この2国間の経済関係が不正常になれば、世界経済に与えるマイナス効果は絶大だ。両国はアジア経済、世界経済の回復と発展のためにも耐えるべきは耐え、譲るべきは譲り、何とか関係改善を図るべきである。中国の多くの人も内心こう思っている。

【筆者プロフィール】

西園寺 一晃（さいおんじ かずてる）氏
1944年生まれ

- 明治の元勲・公爵・首相・枢密院議長である西園寺公望氏を曾祖父に持つ。
- 西園寺公一（きんかず）氏（第一回参議院議員・日中文化交流協会常任理事）の長男。
- 北京大学経済学部卒業
- 朝日新聞社に在籍中は、日中関係の調査研究室長などを歴任。退職後も中国問題の調査、研究にあたる。
- 現在工学院大学客員教授、北京大学客員教授、伝媒大学客員教授、北京城市大学客員教授

北京スタッフ便

「がたふえす」

第3回にいがたアニメ・マンガフェスティバルに参加

今回、研修と取材を兼ねて11月10日、11日に行われるにいがたアニメ・マンガフェスティバルの新潟を訪れました。初めての新潟、初参加のアニメ・マンガフェスティバルで期待と楽しみで胸がいっぱいでした。

第3回目を迎えるアニメ・マンガフェスティバルは、万代エリア、古町エリア、白山・西大畑の3つのエリアで行われ、来場者はなんと4万5800人を超えました。

初日は雨でしたが、開幕式が行われる会場前はたくさんの人々で賑わっていました。開幕式では篠田市長の挨拶、ドラえもんの妹一ドラミ声優担当の横沢啓子さんやアニメ・マンガサポーターキャラクターの花野古町と笹団五郎も登場して会場を盛り上げました。アニメグッズや新潟でしか食べれないお菓子やお土産も展示販売。また、子供から大人まで楽しめる新潟通車フェスやコスプレガタケット、似顔絵コーナー、ガンプラテクニック講座、プリキュア振り付け教室の踊りなど盛りたくさんイベントが開かれました。

二日目に行われたコスプレパレードは今回初めての試みですが、大勢の市民も駆けつけ、新潟のキャラクターたち（ゆるキャラ）やコスプレしている人たちと一緒にパレードは一層フェスティバルを盛り上げました。最後に、キャラクターたちやコスプレしている人たちと写真を撮れる時間も設けていたので、このチャンスを見逃すわけにはいかないと、私も記念に一枚。

来年新潟市では、古町エリアには「マンガの家」、万代エリアには「マンガ・アニメ情報館」の開設が予定されるなど、アニメ・マンガを生かした街づくりに力を入れている印象を強く受けました。

短い期間でしたが、アニメ・マンガ一色に染まっている新潟が見ることができ、また、マンガ・アニメファンだけではなく、私みたいな初心者にも十分楽しめる賑やかで楽しい特色のあるフェスティバルでした。中国の人々にも、日本を訪れる際には、是非、新潟まで足を伸ばして“动漫圣地(マンガの聖地) - 新潟”を肌で感じてほしいと思いました。(李)



コスプレパレードの賑わい



開幕式での市長の挨拶



コスプレしている人々



新潟痛車〜とても可愛いですね！



熱心に踊っているプリキュア振り付け教室